

経済倶楽部「秋の事業所見学会」

今秋の事業所見学会は10月28日（火）に開催致します。今回は一路、小田原に向かい、富士フィルム神奈川工場小田原サイトを見学します。併せて、近隣にあるアサヒビール神奈川工場でも見学と試飲を行う予定です。よろしくお願ひします。

* <開催日> 10月28日（火）

* <見学先> 富士フィルム神奈川工場およびアサヒビール神奈川工場

◆富士フィルムについて

富士フィルムと言えば、かつては「富士写真フィルム」と企業名だったことでもわかるように、写真フィルムの国産化を目指して1934年に設立されました。以来、日本では断トツの強さを見せるとともに、写真フィルムの巨人である米国のイーストマン・コダックを追いかけ続けて来ました。ところが、どうでしょう。2000年以降、カメラのデジタル化の大波が襲うと、それまでの銀塩フィルム市場は急激に縮小してしまいました。そのため、なんと巨人・コダックは2012年1月に米国連邦破産法第11章（チャプター11）を申請して企業再建に乗り出し、事実上の経営破綻したのです。もちろん、この大波は富士写真フィルムも襲いました。その結果、同社は2006年12月に、事業をすべて社名から写真の2文字を取った富士フィルムに継承しました。社名の変更からもわかる通り、同社はこれまでの本業を捨て、新たな収益構造の模索に乗り出したのです。その結果が、お渡ししました資料にあるグラフです。これを見るとわかりますが、2000年度の写真フィルムは全売上高の19%に対して、2012年度は0.5%とほとんどその存在は消滅しています。見学先であるフラットパネルディスプレイ材料（液晶フィルム）は現在の主力事業であるインフォメーションソリューション事業の中に入っている高収益分野です。

◆アサヒビールについて

アサヒビールは持株会社であるアサヒグループホールディング傘下の1企業です。言わずと知れたビール販売のトップシェアを握る企業です。昨年のシェアはアサヒビールが37.6%。キリンビールが34.8%、サントリー14.7%、サッポロ12%で、アサヒは4年連続でトップシェアを継続しています。ただ、ビール系飲料全体は2013年が前年比1%減で、9年連続で減少。ビール、発泡酒が減少傾向に対して、2003年の酒税法改正によって生まれた麦芽以外の原料を使用した新分野（第3のビール）が伸びています。

◆尊徳記念館について

江戸期の天明7年（1787年）に生まれた農村改革者、二宮尊徳は刻苦勉励の人として知られています。彼にまつわる遺品・資料などの展示のほか、電飾模型・等身大の人形を配置したジオラマ展示などの設備を取り入れ、その実像を知ることができます。

◎「**だるま食堂**」＝建物は登録有形文化財に登録され、「小田原の建築百景」に。

小田原市本町2-1-30 電話 0465-22-4128

社団法人 経済倶楽部 電話 3270-0681 F A X 3270-0987 e-mail keizaiclub@nifty.com